

しず老施協

No. 52

平成30年 7 月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail: sizurossi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

巻頭言

会長としての抱負

～魅力ある介護職の確立と福祉現場の
生産性の向上、地域ケアを推進しよう～



静岡県老人福祉施設協議会

会 長

石 川 三 義

引き続き静岡県老人福祉施設協議会の会長を務めさせていただきます。これまで、会長として県内の会員施設の連携強化により諸課題に取り組んできました。介護職員等の実践研究発表の場としての「静岡県高齢者福祉研究大会」の実施をはじめ、「介護の日」の県民への街頭啓発活動や各地での講演会・シンポジウムの開催、県老施協の組織改革や特養部会等の会費徴収の停止による経費削減、ケアフェスタ開催の提唱と参加協力、災害時の各施設間の相互支援協定の締結など、会員の協力により様々な取り組みをさせていただきました。今後とも引き続き皆様の協力とご支援を宜しくお願い致します。

さて、私たち県老施協の会員施設をめぐる環境は、介護報酬単価の改定をはじめ、民間企業との競争や深刻な介護人材不足などを含めて極めて厳しいものがあると考えます。

まず、県老施協にとって大切なことは、介護・福祉人材の確保対策と介護現場での生産性の向上を図ることです。介護人材不足は、大都市圏だけではなく地方都市圏でもかなり深刻化しており、特養の施設整備をしても人材不足からフルオープンできない施設が出てきています。私たちは、この実態をはっきり把握し

エビデンスを基に、県をはじめ関係機関と対策を講じていかなければなりません。老施協の会員施設も、EPAや外国人技能実習制度による外国人の雇用、65歳以上の高齢者の再雇用、障害者の福祉現場での積極的雇用を勧め、働き方改革での勤務体制や雇用の在り方を検討し、離職率防止の為に介護・福祉職に誇りと自信が持てる魅力ある職場環境・施設づくりが必要です。そして、我が国の急激な人口減少は、日本社会が生産性を高めていくための好機であるとも考えられています。5年後、10年後の更なる労働力不足を考えた時、介護・福祉の現場に生産性の視点を入れないと質の高い福祉・介護が、国民から信頼される福祉が実現できないものと考えます。介護現場でのIT化、介護機器の積極的活用、介護見守りロボットの活用、インカム無線機等の使用、介護記録の電子化など、改善と革新（イノベーション）による投入資源の削減と付加価値額の増加という仕事の生産性を上げることが大切と言えます。

いま厚労省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。この地域包括ケアの基本理念は、中学校区などの日常生活圏域において、医療・介護・予防・住まい・生活支援を包括的に提供するものです。まず私たち老施協の会員は、公益性・公共性という社会福祉法人の本質を遵守しながら、地域支援事業の推進をはじめ、共生社会・地域福祉の推進役と共に地域包括ケアシステムの中心的役割を果たし、地域における公益的な取り組みをしていくことが求められています。

最後に、県老施協としては、今後も時代・社会の変化やニーズに機敏に対応し、上記の諸課題に迅速に対処していきたいと考えていますので、会員の皆様をはじめ行政機関及び関係団体のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

特集1

介護記録ソフトの活用について ～アンケート調査から～

企画経営委員会委員長 大塚 芳 正



企画経営委員会では平成29年度事業として介護記録の電子化の推進をテーマとして事業を実施しました。しず老協の51号では昨年度事業全体について概観しました。

今回は「介護記録ソフト導入に関するアンケート」の調査結果等をもとにその活用の仕方を述べます。

アンケートの実施は、企画経営委員会の初めての試みとして同朋大学社会福祉学部社会福祉学科教授下山久之先生に協力いただきました。委員会でアンケート項目の原案を作成し、下山先生にアンケート項目の修正、集計、分析を依頼しました。

アンケート調査は平成29年9月16日～同年11月10日において会員施設を対象として実施しました。回答は148事業所からありました。全体の傾向について以下にまとめます。

- (1) 介護記録ソフトが導入済みの事業所は48%であり、半数にとどまっていた。
- (2) 介護記録ソフトの導入は、記録の共有と業務の効率化が主たる目的であった。
- (3) 介護記録ソフト導入費用は20万円～1400万円と相当の幅があるが、最も多かったのは1000万円程度であった。
- (4) 導入ソフトは10社あったが、「ほのほのNEXT」「ちょうじゅ」「ワイズマン」の上位3社で73%であった。
- (5) 介護記録ソフトはその種類により特徴に大きな違いがあり、使用方法やカスタマイズ等を検討する中で導入を打合せする必要があると判断される。
- (6) 介護記録ソフト未導入の事業者の半数は導入を検討している。
- (7) 未導入の事業所は介護記録ソフト導入に不安があるようで、その支援を期待している。

これらの結果は、報告書として本会ホームページに登

載しますのでぜひご覧ください。また、冊子として会員への配布も検討しております。

この結果をもとに、去る平成30年2月9日に静岡音楽館AOI講堂において、介護記録ソフトの活用方法について下山先生に講演を依頼しました。この講演の中で、介護記録ソフトの活用は単に業務の効率化に役立つのみならず、介護の質の向上に大いに役立つものとエールを送っていました。具体的には、介護記録をデータベース化し、介護状況を適切に評価することにより、次の介護計画に生かすことができるということです。

老人福祉施設協議会として、生産性の向上及び介護の質の向上を目的として、一層の介護記録ソフトの推進を図る必要があると考えます。

(すどの杜施設長)



特集2

平成30年度介護報酬改定の概要と対応

前特養委員会委員長 青野 容幸



介護報酬改定は、皆様ご存じのとおり3年に一度行われるわけですが、平成30年度の改定は医療、障がいサービスと合わせてトリプル改定と言われており、財源の確保が難しいと思われていました。

さらに社会保障費が年々自然増というかたちで膨らんでおり、プラス改定はあり得ない、よくて現状維持ではないかという声が大半であったように思います。実際には老施協はじめ関係団体の方々のご尽力もあり、0.54%のプラス改定となりました。会員の皆様もホッとされたことだと思います。しかしながら、これからの改定はかなり厳しい改定になることが予想されるため、今回の改定（3年間）で収入増になるように対応していくことが必要です。

今回の改定の基本的な考え方は、2025年に向けて質が高く効率的な提供体制の整備を推進していくことであり、4つの柱をもとに見直しが行われています。

- ①地域包括ケアシステムの推進では、医療との連携強化・医療ニーズへの対応、認知症への対応などの体制を整備していくことがもりこまれており、特養においては、看取り体制の強化やたんの吸引等の医療ニーズへの対応を強化した場合に手厚く評価するとされています。
- ②自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現では、文字通り自立支援の強化がもりこまれており、特養においては生活機能向上連携加算が新設され、外部のリハの専門職との連携を評価するものになっています。また、重度化防止に資するため排泄支援、褥瘡発生予防に対する評価の加算も新設されています。
- ③多様な人材の確保と生産性の向上では、10年以上前から言われている人材確保に加えて介護サービスにおける生産性の向上を推進していくことがもりこまれています。平成30年度の国の予算に、介護事業所におけるICT化を全国的に普及するための取組みを実施するため1.5億円が計上されています。特養においては、介護ロボットの活用として夜勤時間帯の

見守り機器の導入で加算要件の見直しがされています。

- ④介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保では、今までの改定と同様に介護保険制度を存続させるための報酬体系や報酬区分の見直しが行われています。特養においては、小規模介護福祉施設の基本報酬の見直しが行われています。

今回の改定は上記の考え方のもとプラス改定となったわけですが、特養として収入増にするために対応を考えていかなければなりません。基本報酬は約1.8%のプラスとなっていますので、介護度・稼働率が変わらなければ収入増につながりますが、確実に収入増につなげていくためには、できるだけ加算を取得していくことが重要です。今まで取得している加算を維持していくことと新設の加算で取得できるものの検討をしていくことが必要ですが、職員の増員なしに現職員体制の中で取得できる加算（褥瘡マネジメント加算等）から取得の準備をしていくことがいいと思います。さらに今回の改定で身体拘束廃止未実施減算の見直しがされました。この減算は大幅な減算となるため基準を確実に実施しなければなりません。定期的に基準のチェックが必要だと思います。

最後に単位とは関係ありませんが、今回の改定では生産性の向上に向けた取組の推進ということがもりこまれています。行政が求める帳簿等の文書量の半減への取組、ICT化によるペーパーレスの取組等を実施していくとされておりますが、日々の介護業務においても手順の再検討、道具の工夫等効率的な業務体制を考えていく必要があると思います。可能な限りの人材確保に努力していくとともに現状の介護業務を見直し、生産性の向上を検討していくことも重要であると思います。

今回のプラス改定が、利用者の皆様、職員、施設にとってもプラスになるように、会員同士の情報交換、情報共有を密にしていけることに取り組んでいきたいと思っています。

（社会福祉法人大須賀苑理事長）

新人職員紹介

どうぞよろしくお願いします

なかざと

(富士市)

- ① サトウ里江カリナ (ケアワーカー)
- ② 親戚の赤ちゃんが生まれたこと
- ③ 新田真剣佑
- ④ 半分貯金、半分は家を建てる
- ⑤ 笑顔と「ありがとう」あふれる施設
- ⑥ 実習時、職員の方々がとても細かく優しく教えてくれたから



ひだまりの郷

(沼津市)

- ① 鈴木 円 (ケアワーカー)
- ② 利用者様に自分の名前を覚えてもらった事
- ③ 石原さとみ、アレックス・オローリン (海外俳優)
- ④ 海外旅行に行く。化粧品をたくさん買う。
- ⑤ 利用者様や職員の笑顔が絶えず、チーム一丸となって利用者様を支援できるような職場にしたい。
- ⑥ 自分の祖母がお世話になっている施設の介護職員の方に憧れをもったから。



住吉杉の子園

(吉田町)

- ① 相田エリクトシハル (介護士)
- ② 仕事と趣味が充実している事です
- ③ ネイマール選手
- ④ 旅行、趣味に使います
- ⑤ 楽しく、元気がある職場にしたいです
- ⑥ 利用者様、職員が元気で面白くて、楽しく仕事が毎日続ける事が出来るなって思いました。



聖ルカホーム

(牧之原市)

- ① 金子萌衣 (介護職員)
- ② 母と二人で久しぶりにゆっくり旅行に行けたこと
- ③ K-POPアイドル
- ④ 大きな家に住みたい。日本国内を旅行する
- ⑤ 入居者様がたくさん笑顔になれる施設
- ⑥ 学生のとき、実習に来てからユニット型支援に興味を持ち、介護計画の実践を通してやりがいを感じられたため



第二南風

(浜松市)

- ① 吉川優美 (介護職員)
- ② ずっと欲しかった化粧品をプレゼントもらったこと。
- ③ 小瀧 望、藤原丈一郎
- ④ 大好きなディズニーに、いっぱい行く。
- ⑤ 笑顔があふれる、自分らしく過ごせる、働ける施設。
- ⑥ 入居者さんの「その人らしい」生活を大切にしている、自分らしく、楽しく働くことができると思ったから。



豊田一空園

(磐田市)

- ① 鈴木 知 (特養ケアワーカー)
- ② 初任給をもらったこと
- ③ 武井 壮
- ④ バイクで日本一周して美味しいご飯を食べたり景色などの写真を撮りたい
- ⑤ 職員が入居者様の事をもっとよく知って全員がひとりひとりに合った介護ができるようにしていきたい。また、入居者様がテレビ以外に楽しみを見つけられる楽しい施設
- ⑥ 今の施設は学生の時に実習やボランティアで来た際に全体的に暖かい所と感じたこと。法人の中で今の施設は家から通いやすいことも選んだきっかけです。



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設(職場)にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

静岡県老施協東部支部の活動紹介

自治体間連携特養の取り組み

特別養護老人ホーム エクレシア南伊豆施設長 高橋 安彦

今年3月に開設されました「エクレシア南伊豆」は、静岡県と杉並区の介護老人福祉施設（特養）を南伊豆町において開設・運営するという、特養整備の自治体間連携構想を具体化したものであり、静岡県の特養整備事業であります。

この自治体間連携特養「エクレシア南伊豆」創設は、都市部と地方が互いにその地域の強みや魅力を活かし合い、それぞれの高齢者問題の解決を図る、全国初の画期的な試みと言えます。

また、この取り組みは単なる特養の開設・運営にとどまらず、健康および地域交流拠点づくり、地元企業との連携、南伊豆の魅力のPR、自治体間の交流促進などを行うことで、積極的にまちづくりを進め、地域貢献を果たしていく、実に幅広い事業となって行くに違いありません。

なお、この自治体間連携による特養運営は、何ら強制的意味合いのあるものではなく、入所や移住にあたっては、あくまで本人や家族の意思や気持ちが最大限に尊重されるのは当然のことです。姥捨て山になるのではないかといったご意見も聞かれますが、それは全く違うのだということは、皆さんに明確にご理解頂きたいところです。

エクレシア南伊豆は、「人に優しく、経済的に優れ

た建物」をコンセプトに構想・建設されております。

最近では、木材を使用する福祉施設が増えてきており、当施設は耐火木造3階建にしております。木造の空間を活かし美術品の季節ごとの展示や小さなコンサートを開催や地元高校生のカフェの実施。

そして、遠方からの家族訪問者用に家族宿泊室など、様々な年代の方々が施設の内外で交流していただける住環境に配慮したつくりになっています。エクレシアの名称の由来は、「人々が集う」という意味があります。



地域交流センター

当施設の開設は、認知症ケア、ユニットケアの推進拠点として、社会福祉法人梓友会が地域中でこれまで30年間高齢者ケアにおいて蓄積してきたノウハウを最大限に生かす機会になると捉えています。

そして、こうした自治体間連携は、地域の様々な活動に関わりながら日本版CCRC（生涯活躍のまちづくり）や地域創生のよき事例となって人々に幸せを与える役割を果たすことができる施設と考えております。



建物全景

広報委員会の活動



広報委員会委員長

兼 子 邦 子

静岡県老施協の広報・啓発活動として機関紙「しず老施協」を年間7月・10月・2月の3回発行しました。今までは、企画経営委員会で編集作業をしてきましたが、平成29年度は企画経営委員会に編集チームを置き、委員会開催時にチームミーティングを行い編集・発行に当たりました。そして平成30年度からは、「広報委員会」として独立し、活動を行う事になりました。主たる活動は①機関紙「しず老施協」の編集発行、②ホームページの改新、③「介護の日」の啓発の3点に

なります。第1回委員会を4月20日に開催して役割分担を決め、第2回6月12日にはホームページ業者との打ち合わせと機関紙の今後の在り方の話し合い、第3回7月19日には機関紙の編集を予定しています。機関紙は会員施設に送付されているので、一般の方にも広報できるようにホームページに掲載しようか等と、既存の物に拘ることなく一から作り上げるつもりで、課題を持って新しい委員会活動をしていこうと思っています。（袋井市立可睡寮施設長）

地域ケア委員会の役割と活動



地域ケア委員会委員長

杉 山 昌 弘

平成30年度より、従来の在宅委員会から、地域ケア委員会として。私はこの地域ケア委員会で新たに委員長となりました杉山と申します。

従来の在宅委員会はデイサービス施設長が中心となり、在宅サービスの調査、研究や職員研修を行って参りましたが、近年の地域包括ケアシステム構築が進む中で、在宅サービスもより多様化しております。また従来の予防事業が市町村の実施する日常生活支援総合事業に移行されており、地域によるサービスの差異が大きくなっ

てきている現状があります。こういった状況を受けて、地域ケア委員会ではデイサービスのみならず様々なサービスを対象とし、また介護保険事業だけでなく、地域包括ケアに係るサービス全般を対象として調査、研究し、その情報を皆様の施設への提供や、行政への要望などに活かしていきたいと考えております。今後、調査にあたりましては、会員の皆様にご協力をお願いいたします、何卒ご協力をお願いいたします。（地域密着型小規模特別養護老人ホーム 丘ホーム施設長）

“動く養護委員会！”

本会養護委員会は、6月8日に衆議院第2議員会館において、衆議院議員 城内 実氏（静岡第7区）同席のもと、厚生労働省老健局高齢者支援課職員との打合せ会を行った。

席上、厚生労働大臣と城内代議士に対して、**1養護老人ホームの空床対策**について、**2措置費に対する消費税増税分の支給**について、**3老朽化施設の建替**について、**4処遇改善加算**についての4項目を盛り込んだ要望書を手渡した。



日 時 平成30年6月8日（金） 11：50～13：30
場 所 衆議院第2議員会館 会議室
出席者 城内 実 衆議院議員

厚生労働省老健局高齢者支援課 小林課長補佐、田中予算係長、宇山事務官、静岡県老人福祉施設協議会 養護委員会 片山委員長、峰野副委員長、山本前委員長、兼子広報委員長、八谷明和会理事長



平成30年度老施協活動報告

【老施協】

- ★30年5月10日 監事監査会
平成29年度事業報告案・収支決算案について
- ★30年5月10日 第1回理事会
もくせい会館第2会議室
- 【協議事項】
理事・委員会委員の補欠の選任、平成29年度事業報告案及び収支決算案について
- 【報告事項】
第10回静岡県高齢者福祉研究大会の進捗状況、平成31年度第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会について
- ★30年5月29日 第1回総会
県総合社会福祉会館703会議室
- 【協議事項】
理事の補欠の選任、平成29年度事業報告案及び収支決算案について
- 【報告事項】
委員会委員の補欠の選任、第10回静岡県高齢者福祉研究大会の進捗状況について
- 【企画経営委員会】
★30年4月27日 第1回委員会
正副委員長の選任、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画について
- ★30年5月29日 第2回委員会
平成30年度活動計画、チーム別ミーティング（調査研究・要望・ネットワーク）について
- 【広報委員会】
★30年4月20日 第1回委員会
正副委員長の選任、委員会の所管事項、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画について
- 【研修委員会】
★30年4月11日 第1回委員会
正副委員長の選任、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画（主催研修）、研修計画ガイドラインについて
- ★30年5月29日 第2回委員会

人材育成研修会、接遇・マナー研修会、県外研修、研修の広報について

- ★30年5月29日
施設長研修会「福祉職の離職動向と職員が定着する職場作り」
県総合社会福祉会館703会議室
*講師 日本生産性本部 主席経営コンサルタント
須江 豊彦氏

【21世紀委員会】

- ★30年4月12日 第1回委員会
正副委員長の選任、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画（各グループ事業）、第10回静岡県高齢者福祉研究大会について
- ★30年5月18日 第2回委員会
平成30年度事業内容（学生セミナー、21世紀委員会委員養成研修、SIZUOKAミーティング等）、提出課題について

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

- ★30年5月23日 第1回委員会
発表の申込状況、今後のスケジュール、一般参加の募集、審査方法・アンケート等、展示会の内容等について

【養護委員会】

- ★30年4月23日 第1回委員会
正副委員長の選任、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画について

【特養委員会】

- ★30年4月17日 第1回委員会
正副委員長の選任、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画、調査事業について

【軽費委員会】

- ★30年5月13日～15日 施設長研修
社会福祉法人野の花会（鹿児島県南さつま市）

【地域ケア委員会】

- ★30年4月24日 第1回委員会
正副委員長の選任、委員会の所管事項、平成29年度活動実績、平成30年度活動計画について

編集後記

先日、地区の中学生に職業講話として、「働くについて」という話をしました。自法人でもちょうど振り返りと目標設定の時期でもありキャリアビジョンについて考えるよい機会となりました。仕事自体や業界や他業界など様々な話をしました。その中で、自らが関わることに明るいビジョンをもって働くを楽しむことはとても大事なことだと改めて感じた機会でした。（大塚）

今年度から新設された広報委員会の片山です。宜しく願います。この4月頭に風邪を引き、数日間寝込んだ後に、腰痛になりました。通院すると、DrはMRI画像を見て骨粗鬆症と圧迫骨折との診断。風邪を引いただけなのに、まだ50代なのにと茫然としました。クールにDrは「ありますよ」と言います。3ヶ月コルセットの暑い夏が待っています。（片山）

ポジティブ心理学の研修で、幸せを高めるものとして「いまを味わう」ということを教わった。ありふれた経験を楽しむ。それまで急いで済ませていることを時間をかけて味わってみる。もうすぐ終わってしまう、ほろ苦い経験に目を向ける。過去や未来ではなく、いまをないがしろにしない。学ぶことが多い研修会でした。（小杉山）

特別養護老人ホーム 第二南風

法 人 名 社会福祉法人 ほなみ会
開 設 日 平成28年7月1日（入会申込 平成30年4月1日）
施 設 長 下位 彰吾
所 在 地 浜松市南区倉松町598
入所定員 60人 デイサービス 40人



特別養護老人ホーム 引佐みやまの里

法 人 名 社会福祉法人 奥山老人ホーム
開 設 日 平成29年9月1日（入会申込 平成30年4月1日）
施 設 長 田中 君文
所 在 地 浜松市北区引佐町奥山1576-81
入所定員 70人 短期 10人



特別養護老人ホーム 介護老人福祉施設エクレシア南伊豆

法 人 名 社会福祉法人 梓友会
開 設 日 平成30年3月5日（入会申込 平成30年4月1日）
施 設 長 高橋 安彦
所 在 地 賀茂郡南伊豆町加納792
入所定員 90人 デイサービス 20人 短期 10人



ケアハウス ケアハウス花

法 人 名 社会福祉法人 白梅福祉会
開 設 日 平成20年4月1日（入会申込 平成30年4月23日）
施 設 長 伊藤 さとみ
所 在 地 浜松市西区大人見町3007-1
入所定員 50人



（お詫び） 5月入会の「鶴寿の里」「ひより」「ディアナの郷」「みずほケアハウス」につきましては、紙面の都合上
次号に掲載させていただきます。

第10回 静岡県高齢者福祉研究大会案内 未来へつなぐ ふじのくにの介護力 ～地域に貢献できるサービスを目指して～

- 主 催 静岡県老人福祉施設協議会
- 後 援 静岡県 静岡県社会福祉協議会 静岡県社会福祉士会 静岡県介護福祉士会
静岡県介護支援専門員協会 静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会
- 期 日 平成30年8月20日（月） 午前9時50分～午後4時20分
- 会 場 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」 大地・6・9・10・11階
- 内 容 研究発表 講演会 福祉機器展示コーナー
- ＜講演会＞ 10：00～ 講 師 メロウ倶楽部副会長 iphoneアプリ「ひな壇」開発者（女性世界最高齢）
若宮 正子氏
演 題 「私は創造的でありたい」
- ＜研究発表＞11：30～ 発表題数 72題 6会場において発表
参加者 ①静岡県内の老人福祉施設の職員
②大学・専門学校等の学生・教諭
③一般市民